

● 国や地域を越えた地球規模の環境問題の流れがわかる ●

環境史事典 トピックス 2007-2018

日外アソシエーツ 編 A5・390頁 定価(本体13,500円+税) ISBN978-4-8169-2779-9 2019年6月刊行

12年間の出来事を年月日順に一覧

- 2007年以降の世界と日本の環境問題の重要な出来事を、年月日順に掲載した記録事典です。『環境史事典 トピックス 1927-2006』(2007.6刊)の最新継続版。
- 地球規模で問題となっている気候変動、温室効果ガス削減、大気汚染、海洋プラスチックごみなど、環境に及ぼす重要事項2,294件について一望できます。
- 我が国史上最大の環境汚染となった2011年の原発事故についても記載しています。
- 年月日順の本文のほか、「キーワード索引」「地域別索引」から多様なアプローチが可能です。

■既刊

環境史事典 トピックス1927-2006

A5・650頁 定価(本体13,800円+税)
ISBN978-4-8169-2033-2 2007.6刊

内容見本

2007年
(平成18年)

7月 光化学スモッグ注意報発令が過去最多。越境汚染が拡大(日本) この夏、光化学スモッグ注意報が発令された都道府県数が過去最多になった。光化学スモッグ注意報は1970年代に多発していたが、80年代以降は排ガス規制などにより減少していた。しかしながら2000年に入ると増え始め、この夏は28都府県で発令された。原因は経済発展をとげている中国からの「越境汚染」とみられている。

2013年
(平成25年)

8.21 汚染水、被災直後から海に流出か(福島県) 東京電力が、福島第一原発事故発生直後の2011年5月から、高濃度の汚染水が地下水に漏れ出し、塞いだはずの坑道から海に直接流出している可能性が高いことを発表した。流出量は1日約10リットルで、事故直後からの総流出量はストロンチウム90が最大10兆ベクレル、セシウム137が最大20兆ベクレル。国の基準である濃度限度は下回っているという。

2014年
(平成26年)

4.15 京都議定書の削減目標、達成(日本) 環境省が、2008年から2012年までの日本の温室効果ガス総排出量の平均が1990年比-8.4%となり、京都議定書で義務付けられた6%削減を達成したことを発表した。ただし、これは排出権取引や森林吸収を加味した数値で、実際の総排出量は1990年比+1.4%となる12億7800万tだった。

2018年
(平成30年)

10.24 欧州議会、使い捨てプラスチック禁止法案を可決(ヨーロッパ) 欧州連合(EU)の欧州議会は、ストロー、フォークやスプーンなどの食器類、綿棒の柄、風船の持ち手といった使い捨てプラスチック製品の流通禁止を盛り込んだ規制案の採決を行い、可決した。流通の総量を規制して、近年社会問題となっている海洋汚染の抑制を目指す。2021年に実施される見通し。

2019.5

お問い合わせは… 日外アソシエーツ 営業局

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845
〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <http://www.nichigai.co.jp/>

■貴店名

注文書

環境史事典 トピックス 2007-2018

定価(本体13,500円+税) ISBN978-4-8169-2779-9

冊



9784816927799